

平成 28 年度 上越市教育課程部 活動報告

部長 上村 淳

1 研究主題

学習指導要領の趣旨を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善

2 研究の概要

次期学習指導要領の趣旨や目指す理念を実現する上で、育成すべき資質・能力や社会に開かれた教育課程をどのようにマネジメントすべきなのか。会員一人一人が講演を通して「カリキュラム・マネジメント」について理解を深め、自校の推進体制の整備に資する。

3 研究の実際

○講演 上越教育大学教授 安藤知子先生

○演題 『カリキュラム・マネジメントを構造化する』

ー社会に開かれたカリキュラムの実現を目指してー

(1) なぜカリキュラム・マネジメントなのか

資質・能力を育成する授業、アクティブ・ラーニングを実現する授業に向けて、指導内容を知の体系として整理するだけではなく、育成すべき資質・能力としても体系化する必要がある。教科の枠を超えて教科横断的にカリキュラムをとらえ、資質・能力の観点から子どもの学習経験全体を構想し、評価・実践をしていくことが求められる。

個々の学校がそれぞれに、カリキュラムをマネジメントし、社会に開かれた教育課程にすることが求められている。これからの学校は学習指導要領や教科書に立脚しつつも、子どもの実態や保護者・地域の願いに応じて指導を柔軟にアレンジし、多様な学び方を保証しつつ最終的には、最適な方法で全員に学力を付けていかなければならない。

(2) 個々の学校でのカリキュラム・マネジメントとは何か

今、求められているマネジメントすべきカリキュラムは、学習指導要領に記載されるコンテンツ（内容の配列）だけにとどまらない。21世紀を生きる子どもたちに必要なコンピテンシー（資質・能力）を育てるカリキュラムは、個々の学校の学校課題と照らし合わせながら独自に組み立て、実施・評価・改善を繰り返すことで編成されるものでなければならない。

(3) カリキュラム・マネジメントを構造化する

学校単位でのカリキュラム・マネジメントを意識するには、リーダーが個々の教育実践を学校単位に集約し、全体の見取り図を示すことが必要になる。そのためのポイントが以下の3点である。

○コンテンツレベルの構造化（今の学びが学校全体のどこに位置付いているか）

○アクターレベルの構造化（全職員による協業性をもった教育課程の実践）

○カリキュラムとカリキュラム・マネジメントを共有する工夫（ビジョンの明確化と構想、共有）

4 成果と課題

「カリキュラム・マネジメントについて、はっきりとした見通しがもてるようになってきた」・・・講演後、多くの参会者からこのような感想が寄せられた。これからの学校は「グローバル化する社会の中で通用する力を身に付けさせること」、さらに、「地域を支える核としての学校づくりを進めていくこと」が目標となってくる。カリキュラム・マネジメントは、その目標を達成するうえで大きな役割をもつことが理解できた。

「育成すべき資質・能力」「育成の方策」までも含めたものを「カリキュラム」ととらえ、これを各学校の実態に合ったものにするため「マネジメント」することが求められる。そのため、学校のリーダーが中心となって学校全体で目指すものを明確にして共有すること、さらに個々の教師が「自分は何を、どのように学ばせ、何ができるようにするのか」という育成すべき資質・能力の観点を意識することが必要であろう。



安藤教授の講演